

公衆衛生の危機

～コロナ禍を乗り越える～

2019年の年初から続くコロナ禍はようやく出口を見出したかのようです。この間、住民の生活不安は増大し、諸外国との交流は途絶え、インバウンド観光客はゼロになり、神戸経済も沈滞しました。大阪での公衆衛生活動の失政で明らかになりましたが、保健所や公衆衛生研究所をリストラした結果、PCR検査は滞り、病院では重症者に対応するベッドの不足、医療体制のひっ迫状況が改善されぬ状況を招きました。別添資料



大阪では、2007年から2019年の間に医師や看護師などの病院職員数は50.4%削減、衛生行政職員数は24.1%も削減されました。コロナ禍での100万人当たりの死亡者数は、全国平均5.8人に対し、大阪では9.5人で全国最悪ワースト1です。政治が住民の命を守らなかった最悪のモデルでしょう。

ワクチン接種も大事なポイントですが、私は予防政策のプロとして、平常時からの健康危機管理体制をしっかりと整備することを一貫して提言しています！



しんご新聞

2023年3月

春号

元兵庫県議会議員
高橋しんご
神戸市中央区北長狭通2丁目30-42
ピアザ神戸
TEL 078-453-0451
FAX 078-453-0452

高橋進吾の政治活動の始まりは震災直後の中央保健所でした

28年前の阪神・淡路大震災。高橋しんごは当時、大阪大学医学部の大学院生でした。私の所属する「公衆衛生学」教室は病気の予防を支える学問の府。神戸市役所から健康づくりのための仕事を任されており、私も住民健康診断のデータを解析して、脳卒中やがん、歯の健康づくりのアドバイスを行っていました。大震災の発生2日後。私は教室から三宮の神戸中央保健所に派遣され、避難所・救護所の環境整備や保健師さん達の支援、そして保健所の活動を記録する為に1か月間を超える泊まり込み支援を行いました。この記録が元となって、国の震災時における公衆衛生活動マニュアルがまとめられました。

これが契機となって、平成9年から5年間、高橋しんごは神戸市保健所の予防担当の医系技官として住民の命と健康を守る仕事につき、政治課題としての予防医療政策の重要性を認識し、政治の道を志すようになりました。大震災直後の三宮の中央保健所から、私の政治活動は始まりました。



高橋しんご プロフィール
□昭和43年2月25日生まれ
□平成4年 東北大学歯学部卒業
□平成7年 阪神淡路大震災発生。大阪大学より派遣されて神戸市保健所で2か月間泊り込み支援。
□平成9年 大阪大学医学部大学院修了（医学博士）
□平成9年～14年 神戸市保健所
□平成19年～ 初当選（14,109票）
自民党副幹事長・警察、産業労働、文教の各常任副委員長
□平成23年 2期目（20,302票）
総務常任委員長、
自民党政調副会長
□平成27年 3期目（26,678票）
自民党筆頭副幹事長、
健康福祉常任委員長
□平成29年 第125代県議会副議長
□平成30年 自民党議員団 健康福祉部会長・関西広域連合議会議員

保健・医療・福祉の問題は、
ライフワーク
ただいま充電中!!

県議会議員として「兵庫県健康づくり条例」の制定を実現！

平成19年の県議会議員選挙で初当選（東灘区）した高橋しんごは、ライフワークを「住民の命を守る政策の実現」におき、「予防・医療政策の充実」を1丁目1番地の政策課題として活動してきました！平成23年には、全国初となる、「からだ」と「こころ」と「お口」の健康を三位一体で推進する「兵庫県健康づくり条例」の制定にこぎ着けました！ また、その後、働き盛り世代に対する大切な健康づくり支援として、「健康づくりチャレンジ企業」制度も開始されました。議会活動、政治活動大切さを感じ、議員としての大きなやりがいを感じました。

高橋しんごが中央区から発信する住民目線の政策実現！

1 100年後の街を見すえた、元町・県庁界隈の再整備を一刻も早く行うこと！

元町・県庁周辺には、建築後40年～50年を経過する兵庫県民会館や神戸総合庁舎等の県有施設が点在しています。また、大倉山周辺の「文化ゾーン」でも市立体育館や公的施設が廃止を検討されていますが、その後の活用や整備については議論が進んでいません。

斎藤知事就任後、それまで検討されていた議論が凍結されたままです。婦人会や地域の商店街からも強く要望が出されています。これまでもずっと指摘されてきた、元町駅をはさんだ南北の人の回遊性の向上などの課題とあわせ、100年先の街づくりをみすえた再整備の検討を一刻も早く進めるべきです！



2 中央区のドーナツ化現象後の対策をしっかりと！

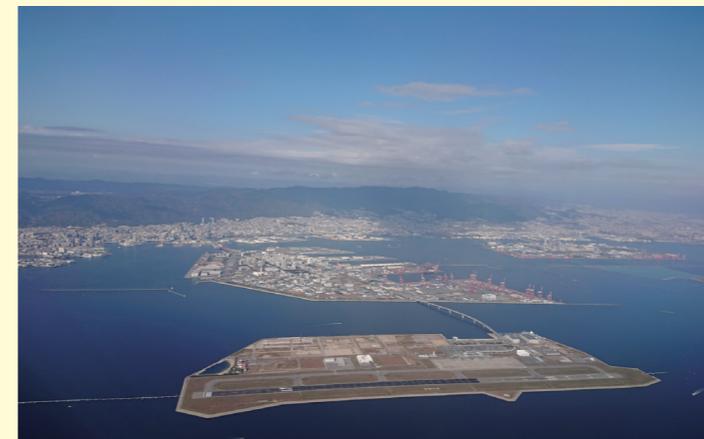
都心からの住民の流出～いわゆるドーナツ化現象は中央区でも大きな課題でした。人口減少に対応するためとして、小学校の統合などが進められ、神戸小学校区では3つの学校が統合されました。しかし近年では、都心部・ベイエリア中心にマンション建設が進み、都心への人口回帰が進んでいます。人口減少

どころか、逆に人口集中に対する施策に舵を切る必要があります。以前のドーナツ化現象を前提とした施策では到底対応できません。安心して住まいし、子育てできる環境づくりが求められています。



3 神戸港と神戸空港の未来像を提示すること！～神戸経済の活性化には必須～

神戸港と神戸空港を有する中央区は、神戸市・兵庫県のみならず関西一円を代表する窓口です！震災以降、アジアのハブ港湾としての地位をすっかり奪われてしまった神戸港のにぎわいを取り戻すこと。そして、そもそも国際空港である関西空港として整備すべきだった神戸空港は、ご承知のように搭乗口が4つ



のまま、当乗客数が増えているとはいえ中途半端なままです。あわせて、「港」と「空港」、神戸経済の浮沈を左右する大きな大きな財産を、県と市が強調して大きく育てることが何よりも重要です。

4 地域商業の活性化！

県会在任中の平成27年10月に、私たち県会議員の発議による兵庫県の「中小企業の振興に関する条例」が制定・交付されました。中小企業の振興が、県政の最重要課題の一つであると高らかに宣言したものです。その一方で、商店街の理事長さんや関係者からのお声を伺うと、条例の趣旨に基づいた地域商店街の振興策が十分になされ活性化が図られているとは言い難い状況です。中央区にはセンター街やさんちかなどの中心商店街と、

